

## 第18回

働くってどういうこと？  
～ 自分の職業生活をデザインする～講師  
谷 昌之

みなさんは、将来どのような職業に就きたいと考えていますか？すでに具体的な職業名が浮かぶ人もいれば、そうでない人もいます。今回は「働く」がテーマです。社会の変化や科学技術の進歩で、新しい職業が次々と誕生し、これまであった職業がなくなる例も見られます。また、職場環境や働き方もどんどん変化しています。そうしたなかで「働く」ということそのものについて、自分のこれからの人生と関連させて考えていきましょう。

## ◆◆◆ きょうのキーワード ◆◆◆

## 雇用形態

日本では戦後の高度経済成長（1955年～1973年）の中で、新卒者は主に正規雇用である正社員として採用されてきました。しかし、1980年代後半のバブル経済の崩壊を経て、景気が低迷した1990年代以降は人件費削減などのため、企業は非正規雇用を増やすようになりました。1990年に881万人だった非正規雇用者の数は、2014年には1962万人と2倍以上になりました。非正規雇用のうち、契約社員や派遣社員はフルタイムで、アルバイトやパートは時間単位で短時間、といった働き方が多くみられます。

正規雇用と非正規雇用は、勤務時間や契約期間の違いだけでなく、責任の大きな仕事を任されるかどうかといった職務内容の違いや、各種手当や賞与（ボーナス）の有無などの給与制度の違い、短時間勤務の場合は企業の社会保険に加入できず、個人で国民年金や国民健康保険に加入しなくてはならない場合があるなど、待遇での違いなどがみられます。

## 同一労働同一賃金

「正規雇用と非正規雇用間の不合理な待遇差の解消」を目的として、同一企業・団体において、職務内容が同じであれば、同じ額の賃金を従業員に支払うなど、正規と非正規の格差解消をめざすという制度です。大企業は2020年4月1日から施行され、中小企業は2021年4月1日からの施行が予定されています。

この「同一労働同一賃金」制度は、働く人々が個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を自分で「選択」できるようにするための“働き方改革”のひとつです。どのような雇用形態を選択しても、納得が得られる処遇を受けられるようにすることで、多様な働き方を自由に選択できるようにすることをめざしています。

副業

「正規雇用なら定年まで勤めることができる」という正社員の終身雇用の考え方は、大きく変化しています。そうしたなか、正規雇用労働者の働き方改革のひとつとして、企業が社員の副業や兼業を認める動きがあります。希望する人は年々、増加する傾向にあり、厚生労働省でも2018年1月に「副業・兼業の促進に関するガイドライン」をまとめ、労働者の長時間労働につながらないよう、健康確保にも留意しつつ、副業・兼業の普及促進を図っています。企業のメリットとしては、個人の能力向上に役立つような「仕事」を社外でもらうことで、会社での「本業」にもプラスになる面が考えられるということです。

キャリアデザイン

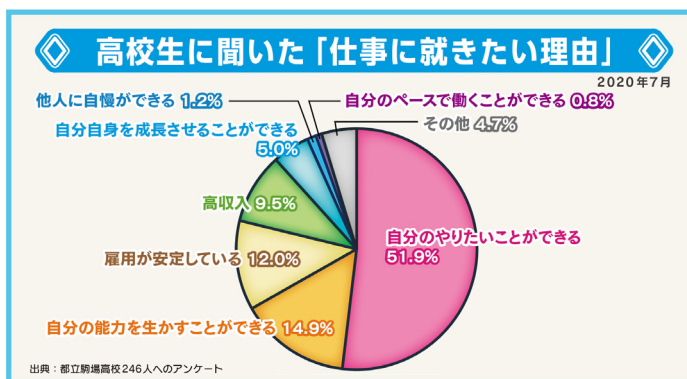
経済的に自立した生活をするためには、仕事を通じて収入を得ることが必要です。しかし、「働く」ということの意義や目的は、単に収入を得ることだけではありません。私たちは仕事に取り組むことを通じて、人と出会い、自分の能力を磨き、成長していくとともに、社会とつながり、社会に貢献していくことも重要です。

自分の人生において、職業労働にどの程度の重みを持たせるかは人それぞれであると言えます。その中で、自分の興味や関心、得意なことを高め、自分の満足がいく働き方を見つける準備を進めていく必要があります。仕事や仕事上の経験といった「キャリア」の視点で自分の人生を計画し、実行していくことを「キャリアデザイン」といいます。

家庭総合では、第1回「どんなふうに住きたい?暮らしたい?」で自立したオトナになるにはどうしたらいいか、また第5回「女性の仕事?男性の仕事?」では男女ともに家庭も仕事も充実した生活を送るにはどうしたらいいか、「ワーク・ライフ・バランス」について取り上げてきました。今回の番組とあわせて、自分らしい生き方、働き方について考えてみましょう。

1 なぜ働くのか?

(1) 番組では高校生を対象としたアンケートを紹介しましたが、あなたにとって「職業に就く理由」は何ですか?



このページ掲載の文章・画像の無断転載及び商用利用を固く禁じます。

(2) あなたが職業を選ぶ際に、どのようなことを重視しますか?

	とても重視する	やや重視する	どちらでもない	あまり重視しない	まったく重視しない
1. 働く時間が短い仕事					
2. 失業の心配がない仕事					
3. 健康を損なう心配がない仕事					
4. 高い収入が得られる仕事					
5. 仲間と楽しく働ける仕事					
6. 責任者として、采配 <small>さいはい</small> が振るえる仕事					
7. 独立して、人に気がねなくやれる仕事					
8. 専門知識や特技が生かせる仕事					
9. 世間からもてはやされる仕事					
10. 世の中のためになる仕事					

出典：NHK 放送文化研究所「現代日本人の意識構造 第8版」より項目を引用

上の表で、最も重視するものを1つ選び、なぜそれを選んだのかまとめましょう。

選んだ番号【    】

選んだ理由

## 2 雇用形態のメリット・デメリット

(1) あなたが将来、働くにあたって、心配なことや不安なことをあげてみましょう。

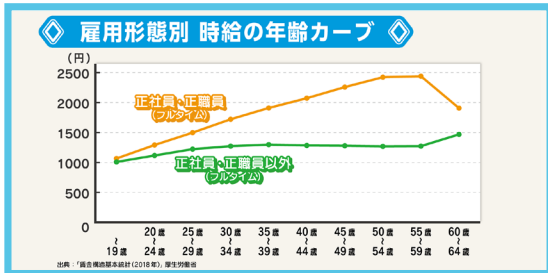
(2) 非正規雇用のメリットとデメリットを整理してみましょう。

◆ 雇用形態の一般的な分類 ◆ ※例外もあります

	正規雇用		非正規雇用		
	正社員	契約社員 (職能社員を含む)	パート タイマー	アルバイト	派遣社員
契約期間	定めなし	有期	定めなし 有期	定めなし 有期	有期
就業時間	会社で定める勤務時間		正規雇用と同じ場合もあるが、契約により正規雇用より短いことが多い		

◆ 雇用形態の特徴 ◆ ※一般的なものを、例外もあります。

正規雇用(正社員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用が安定</li> <li>・高収入</li> <li>・社会的信用</li> </ul>
非正規雇用(非正社員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・責任と負荷が軽い</li> <li>・場所や時間が自由</li> <li>・仕事の満足度が高い</li> </ul>



メリット(利点)

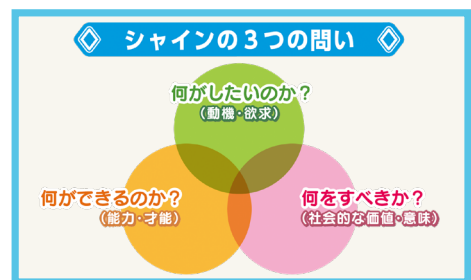
---

デメリット(欠点)

---

### 3 自分らしい生き方と職業生活

キャリアデザインを考えていく上で、自分自身のことを理解することは非常に重要です。どうしたら自分らしい生き方、働き方をみつけることができるのか、番組の最後で紹介したアメリカの心理学者、エドガー・シャインが提唱した3つの問いで考えてみましょう。



1. 何をしたいのか?  
動機・欲求・好きなこと。「何をやっているときに時間を忘れるくらい没頭できるか?」
2. 何ができるのか?  
自分の能力・才能・できること。「何が得意か? これまで何を身につけてきたか?」
3. 何をすべきか?  
社会的な価値観・意味・信条・こだわりなど。  
「何をやっているときに意味を感じ、社会に役立っていると実感できるか?」

あなたが将来、就きたいと考えている職業  
(気になる職業や憧れる職業でも構いません)

このページ掲載の文章・画像の無断転載及び商用利用を固く禁じます。

「シャインの3つの問い」にあてはめて、希望の職業につくために、自らのことについて考えてみましょう。

何がしたいのか? (動機・欲求)	何ができるのか? (能力・才能)	何をすべきか? (社会的な価値・意味)
なぜその職業を選んだか?	その職業で発揮できそうな「自分の強み」について	その職業はどのような点で社会に役立つのか?
	これから身につけておくべきことや、高めておくべきことは?	

きょうのまとめ

高校時代は、将来の職業生活について考え、その準備をする時期でもあります。そのためいま、どのようなことをすべきか考えてみましょう。